2026（令和 8）年度学校推薦型選抜【県内高校枠】
出題の意図と評価基準

【集団ディスカッションのテーマ】

努力すれば報われる社会は本当に公平なのでしょうか。みんなで話し合ってください。

【出題の意図】

「努力すれば報われる社会は本当に公平なのか」という問いは、現代社会のあり方や人々の価値観を深く考えるきっかけとなるテーマである。社会学では、個人の努力だけでは乗り越えられない構造的な格差が存在することが指摘されており、家庭環境や教育の機会、地域差などが、努力の成果に大きく影響することが知られている。心理学では、人は「世の中は公平である」と信じたい傾向があり、それが時に、困難な状況にある人への理解を妨げたり、自己責任を過度に強調したりする要因になるとされている。倫理的には、「公平」とは何か、「報われる」とはどういう状態かといった言葉の意味を問い直すことが重要であり、単純な成功や失敗の物語では語れない複雑さがある。

このような問いを集団ディスカッションで扱う理由は、応募者の思考力や対話力、そして社会へのまなざしを多面的に見極めるためである。まず、抽象的なテーマに対して、自分なりに論点を整理し、言葉の意味を明確にしながら話を組み立てる力が問われる。次に、他の参加者の意見に耳を傾け、必要に応じて自分の考えを調整したり、議論を深めたりする姿勢も評価の対象となる。さらに、社会の中で困難を抱える人々への理解や、誰もが生きやすい社会をどう築くかといった視点があるかどうかも、ディスカッションにおける発言内容から評価する。

このテーマを通じて、受験者の人柄や価値観を、知識や発言量だけでなく、思考の深さと対話の質から立体的に捉えることができる。面接官は、発言内容だけでなく、議論の進め方や他者との関わり方にも注目し、総合的な評価を行うことができる。